

社会部会

＜県研究主題＞

社会的な見方や考え方を養い、よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎を培う学習指導と評価の工夫・改善

提案 1

提案者 黒羽 玄記（湘南三浦地区）

＜研究主題＞

児童が抱いた疑問を解決し、自らの生活を見つめ直していく社会科を目指して  
～「さぐってみよう 昔の暮らし」の学習を通して～

1 提案内容

単元名「さぐってみよう昔の暮らし」

（1）研究主題設定について

子どもたちは与えられた課題を受動的にこなすことが多く、人前で意見を発表することが苦手であった。そのため、自らの生活や社会的事象に働きかけることが少なく、子どもたちに課題を見つけさせ、そのことについて思考させることで自らの生活を見つめ直すことのできる素地を育みたいと考えた。

（2）主題達成のための具体的な手立て

- ①山車と神輿の写真を拡大し、細部まで見やすくした。
- ②山車と神輿の写真から、気づいたことを疑問に思ったことを学習課題にして子どもたちの言葉でまとめた。（言語活動の充実）
- ③お囃子を指導している地域の人をゲストティーチャーとして招き、お囃子の体験をした。

（3）成果と課題

①成果

- ・単元を通して、「祭りや昔のことが好きになった」「地域の人が優しい」など祭りのことを知って地域のことを考えられるようになったり、祭りのことを意識したりするようになった。
- ・身近なことに対して、社会的な見方や考え方ができるようになった。
- ・身近なことに対してたくさんの疑問を持ち、社会的に考えられるようになった。

②課題

- ・限りある授業時間の中で、広く子どもたちの意見を聞くことができなかった。また、考えを文字にして整理する時間が不足していたので、子どもの考えを細かく見取ることができない場面があった。
- ・祭りを扱う小単元と、人々の暮らしや道具を扱う小単元のつながりを持たせるべきか、ばらばらに扱うべきだったのか迷った。単元の構成は子どもの実態、地域の実態によって変えていく必要がある。

## 2 協議内容

- (1) 畑が減少してきているのに、どうしてまた祭りが盛んになってきたのか。子どもの見とりの中でもどうしてまだやっているのかなとあったが、指導要領の内容の保存の継承を迫り、追及していく上でよい素材だと思う。それを子どもが出してきた時に、授業の中でどう扱ったのか。  
→一時は衰退してきたが、新しい町も誕生してきて、守ってきたものが無くなってしまふのはいけないのでみんなで立ちあがった面が大きいと思う。子どもにインタビューを進めたが中々聞けず、どういった理由で再構築してきたのかは、子どもたちの考えからいきつけなかった。新しい町内会が新しい太鼓を使いはじめ、変わってきた面もある。
- (2) 子どもたちは新聞づくりが好きといていたが、単元をどうやってまとめたのか。  
→祭りを紹介するポスターを作成しようとしたが、3学期になって予定がずれ、以前行った学区探検で町のことを調べていた事とつなげて、今考えている事とどう自分の考えが変わったかまとめた。
- (3) ゲストティーチャーは、授業にどれくらい関わったのか。  
→子どもたちにもっと祭りのことを知ってもらいたいという視点から、お囃子の部分の思いを話していただいた。
- (4) 「オリエンテーションで写真を見て気づいたこと」と、「お祭りや昔の様子を探ってみよう」という2つのねらいが一つの単元として成り立っているので、小単元に分ける必要はなかったのではないか。単元がどう練り上げられたのか教えてほしい。  
→写真を見た時に、昔の様子より、祭りに視点がいった。祭りの道具から生活の道具につなげていった。他にも手立てがあったと思う。

## 3 助言

- (1) 地域素材の良さ：時代と共に変化してきている教材として魅力があった。社会を形成する人、それを織りなす事、それを支えるものが調和された教材。そこに先生の分析、祭りが地域のコミュニティーとつながりがあった。地域によって異なるが、素材があれば単元化していくことが望ましい。
- (2) 「自分事」として捉える：自分事として捉えていかないと良い素材もいきていかない。子どもがじっくり向き合えるようにする。実物を使う。昔の道具の体験活動をする。
- (3) 振り返りの大切さ：学習後の児童の変化が見られるので大切にしていきたい。
- (4) 社会的な見方や考え方：多面的な見方、社会的な捉え方ができないといけない。
- (5) 問題解決学習：問題解決学習を行う際に、「単元の軸」をしっかり設定しないといけない。そうすることによって、単元計画を立てやすくなる。
- (6) 指導計画と評価：学習の中に取り入れること、またノート指導の充実を図ること。

## &lt;研究主題&gt;

学び合って 心をつなぎ、高め合う子 ～「みんながわかる授業」の創造～

## 1 提案内容

单元名「水産業の盛んな地域を訪ねて～水産物が私たちに届くまで～」

## (1) 研究内容

- ①「みんながわかる授業」に向けて
- ②「わかる」をどのように捉えていくか
- ③自ら問題解決に迫るための、協同的な学びを生かした单元構想
- ④目指す子どもの姿と教員の関わり

## (2) 実践の概要

- ①教材化について ～遠い地域も「私たちの日本」と捉えることができるように～
- ②学習過程について～水産業と自分たちとのつながりを考えていけるように～
- ③学習活動について～これまでの学習の成果を発揮する場面をつくっていけるように～
- ④指導と評価について～学習してきたことを自信にかえていけるように～
- ⑤一人一人が生きる社会科学習について  
～一人一人が問題解決に向けて動き出していけるように～

## (3) 成果と課題

## ①单元を見通す学習課題

- ・一番大切なことは、単元の導入でしっかりと子どもたち一人一人の問題意識（なぜ、どうして、これまでの学習の違いなど）を生み出していくことである。その問題意識を共有化してできる、「单元を見通す学習問題」が学習意欲の向上・持続・継続につながっていく。

## ②单元を見通す学習問題に対する子どもたちの姿

- ・内容面における指導は今後も必要だが、「書かされている」のではなく、「書いて自分の考えを伝えたい」という気持ちを感じることができた。
- ・学習問題を学級の仲間と共に解決しようとする意識が出てきた。一人一人が問題と向き合い、意欲的に授業をつくっていかこうとする姿勢が「みんながわかる授業」の土台となっていく。

## 2 協議内容

## (1) なぜ、遠く離れた根室や宮古を教材化したのか？

→自分の地域から離れていても、1年間の学習を通していろいろな地域を扱っていくことで日本全体を身近なものとして感じてほしい。また、既習の三浦を生かすためにも、「日本の漁業」という観点で見たときに、その特徴が一番出ているから教員から提示した。

## (2) 子どもたちの意見や考えを交流することを通して考えが深まったところはいつか？

→8時間目にそれまでに学習したことを生かした話し合いを設定していた。しかし、震災の影響が大きすぎて、子どもたちはことばを失ってしまった。自分の考えを交

流するというよりは、真剣に資料に向き合い、そこから分かったことを話し合う展開となった。

(3) 学習問題をたて、調べて解決していくという学習の流れについて、今、先生が思われていることがあれば教えてほしい。

→資料を選択・収集して調べていく子どもたちに育てていきたいが、まだまだ難しい。自分たちでどうにもならないところについては資料をこちらから提示して、というようにしていきたい。問題の中から問いを見だし、それに対する答えを考え、意味を理解していけるようにしていきたい。

### 3 助言

#### (1) 単元計画

- ①ねらいを明確にすることが一番大事。そのためには、学習指導要領をよく読みながら、そこに書かれていることを、教員のことば、子どものことばに置き換えて考えてみることから単元目標をつくる。次に目標を達成するためにどんなことを通して学ばせるかを、子どものことばを想像しながら考えていく。提案5ページにあるようにそれぞれの時間の役割がわかることが大切である。それにそれぞれの時間に必要な資料や活動を具体的に考えていくと、知識の構造図ができあがる。
- ②知識の構造図は必ずしもなくてもよいが、それぞれの時間が持つねらいや役割を教員が明確にし、単元を構造的に捉えながら指導に取り組むことが重要。

#### (2) 指導と評価

- ①「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」は参考になる。
- ②「指導に生かす評価」と「記録に残す評価」を、単元を構想する中でバランスよく配置することが大切。

#### (3) まとめ

単元計画、単元目標、各時間の目標を知識の構造化などにより明確にし、評価をバランスよく組み合わせて指導をしていってほしい。

### 4 グループ協議

#### I 「思考力を深める教材の工夫」 II 「思考力を高める指導と評価の場面」

#### (1) 地域の教材化

- ・ねらいやどういう力をつけさせたいかが大切。
- ・具体的な人や物に繰り返し関わらせること。
- ・子どもにとって教材が身近なものでなくても、学習を通して身近になっていく。
- ・子どもたちが考える土台となる事実をどれだけつかませるかが大切。

#### (2) 指導と評価の場面

- ・学習のねらいに向かって、思考が深まっているかどうか。
- ・子どもの興味・関心を高めるのが必須。子どもが身近に感じられる題材の工夫。
- ・学び方（グラフの読み方）、ノート書き方などの指導。
- ・子どもたち自身で学習をふり返り、自分の学びの変化を感じさせる工夫。
- ・新たな資料を突きつけるなど、子どもたちの思考を揺さぶる工夫。